

## 春季モニタリング調査結果の報告



平成19年7月

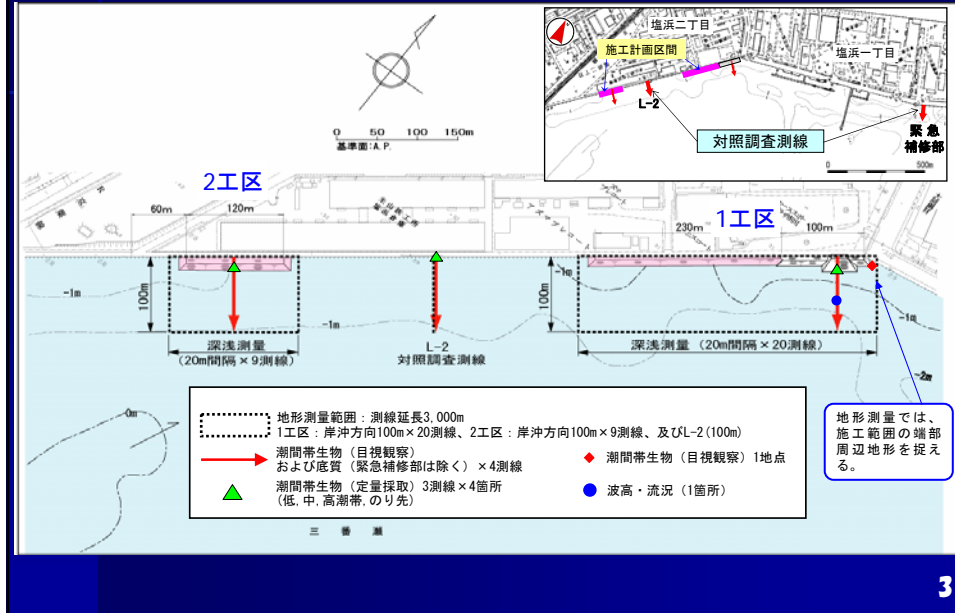
千葉県 葛南地域整備センター

### 平成19年度のモニタリング調査計画

1工区: 施工後8ヶ月  
2工区: 施工前

区分	項目	目的	方法	時期(間隔)	数量等
検証項目	地形	・護岸部の張り出しによる周辺への物理的影響の把握 ・洗濯等による周辺地形の変化の把握等	地形測量	春季: 4月 秋季: 9月 の年2回	・1工区: 岸沖方向100m × 20測線 = 測線延長2,000m ・2工区: 岸沖方向100m × 9測線 = 測線延長900m ・L-2対照調査: 岸沖方向100m × 1測線 ※施工範囲の端部周辺地形を捉えるため、施工範囲の両側に測線を追加する。
	底質	粒径の変化の把握	採泥 ・粒度試験	春季: 4月 秋季: 9月 の年2回	・潮間帯生物(目視観測) 調査の3測線で10m間隔で採泥(11検体、緊急補修部は除く): 合計33検体
	生物	潮間帯生物の定着状況 ※調査は公開とし、ライトランセクト法による観察は市民との協働で行うものとする。	ライトランセクト法による観察  採取分析	施工前: 4月(H19) 施工後1ヶ月: 9月(H19) 施工後5ヶ月: 1月(H20) 施工後8ヶ月: 4月(H20) H18年度施工箇所についても同時期に調査	・1及び2工区の中央部に1測線、対照区として測線L-2の1測線(100m)及び塩浜1丁目の緊急補修部の計4測線 ・石積護岸(斜面上): 方形枠(50cm×50cm)による連続目視観察 ・のり先から離岸距離10mまで1m間隔 ・のり先から離岸距離10~100mは10m間隔 ・第1工区の東側端部の1地点においても観察
	景観	住民アンケート  ・施工中の周辺域との景観の調和 ・石積へのごみの堆積状況の把握	地元自治体住民より無作為抽出のアンケートを実施  委員、一般市民参加による見学会形式	護岸全体の平面配置図、設計上の配慮事項を作成後  施工回数	調査内容は護岸検討委員会にて検討し決定する。 ex) アンケート調査等  実施時期については、完成後の経過時間と台風後などの状況を踏まえて決定する。
基礎情報	外力(波浪・流況)	・波高・波向の計測 ・流れの計測(海底面上約1m)	波高・流速計の設置	・9月と10月 ・3月と4月 最長2ヶ月×2回/年	・1工区の護岸前面の1箇所(30日~60日連続観測; 目的とする外力が把握される時点までとする)
	インパクト	・青潮時の溶存酸素量測定(生物環境への影響把握)	DO計による測定	青潮発生時	・1工区の完成断面石積のり先。未施工区間の直立護岸前面

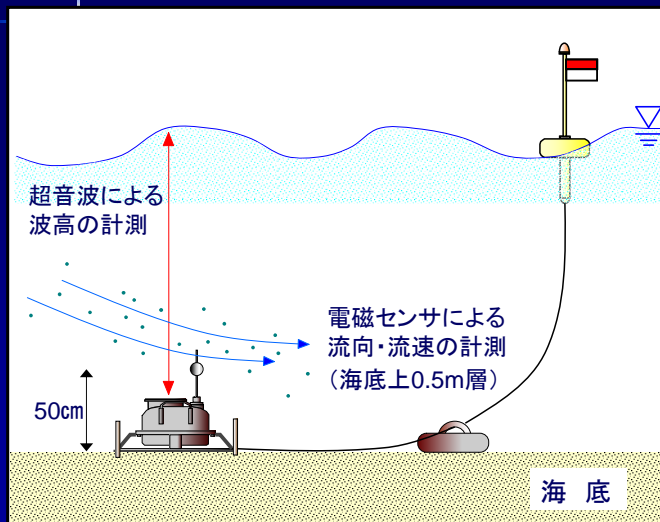
## 平成19年度 モニタリング調査位置



## 1. 波浪・流況

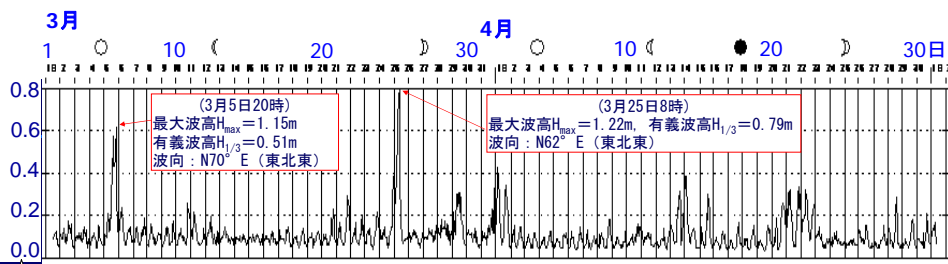
調査項目：工事区域周辺の波高・波向、海底上0.5m層における流向・流速

調査期間：平成19年3月1日～5月1日（60日間連続観測）



波高流速計  
DL-2型

## ① 波高の経時変化(有義波高)



波高  
(m)

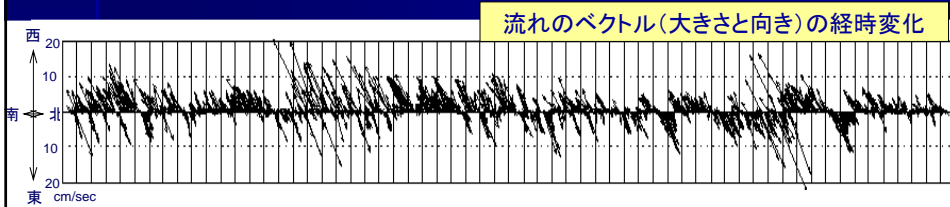
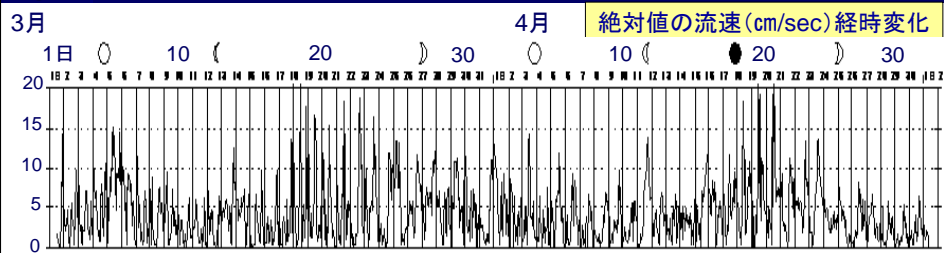
観測期間中の波高平均値(有義波)

	調査時期	波高m	周期sec
施工前	H18年3月	0.09	2.7
施工直後	H18年9月	0.08	2.6
施工後約8ヶ月	H19年3月・4月	0.11	2.6

波高は全体的に低く、平均で、8~11cm程度。施工前、施工直後と同様な傾向がみられた。

5

## ② 海底上0.5m層における流速の経時変化

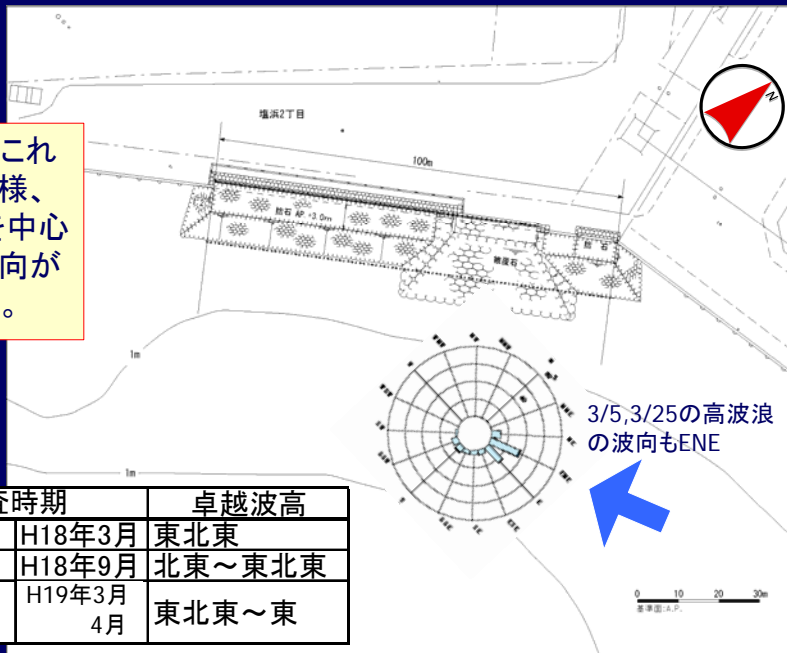


	調査時期	観測期間中の平均流速 cm/sec
施工前	H18年3月	3.6
施工直後	H18年9月	4.6
施工後約8ヶ月	H19年3月・4月	4.2

6

### ③ 観測期間中の波向頻度

波向は、これまでと同様、東北東を中心とする波向が卓越した。



調査時期		卓越波高
施工前	H18年3月	東北東
施工直後	H18年9月	北東～東北東
施工後 約8ヶ月	H19年3月 4月	東北東～東

7

### ④ 観測期間中の流向頻度(海底上0.5m層)

東北東(ENE)と、南西(SW)・西南西(WSW)方向の往復流が卓越



調査時期		卓越流行
施工前	平成18年3月	東北東、西南西
施工直後	平成18年9月	東北東、西南西
施工後約8ヶ月	平成19年3月 4月	東北東、西南西 及び南西

8